

## 熊本県立熊本農業高等学校 令和4年度（2022年度）学校評価計画表

### 1 学校教育目標

校訓『敬天愛人』と『熊本の心』を基本理念に、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育み、社会と共に進化し続ける人材の育成と活気に溢れた学校づくりを目指す。

#### 【方針】

- (1) 校訓 『敬天愛人』  
(2) 綱領四条目 「慎思力行」「剛健進取」「儉素礼讓」「自制協同」  
(3) 建学の精神 「其手足を低き地に働かし、心を高き天に置けよ」  
【教育スローガン】 なすことによって学ぶ ～夢を目標に、挑戦・努力・継続～

### 2 本年度の重点目標

- (1) 学びの個別最適化（基礎学力向上）  
ア 生徒一人一人を理解し、主体的に学びに取り組む意欲を育成する。  
イ 生徒の授業への興味、関心を高め、適切な学習評価を指導にいかす。  
ウ 「新しい価値の創造」、「責任ある行動」ができる力を育成する。  
エ 図書館の活用と朝読書の推進による、読む力、表現する力を育成する。
- (2) 一人一人のニーズに応じた生徒指導  
ア 基本的生活習慣を確立することで、生徒の健康や安全教育を推進する。  
イ 教育相談を充実し、生徒が安心して学校で過ごせる環境を実現する。  
ウ 部活動をとおして心と身体を強くし、活気溢れる学校生活を実現する。  
エ 農業学習、環境保全活動等を通して、自他を認め、生命を尊ぶ心と自然を大切に  
意識を醸成する。  
オ ボランティア活動を推進し、地域社会に貢献する意識を醸成する。
- (3) 夢を目標に、日々挑戦  
ア 農業教育をとおして協働する精神を育むとともに、グローバルな視点で物事を  
捉え、国際社会の形成者としての資質を磨く。  
イ 身近に起きる様々な問題に気づき、周囲と協働して課題解決に取り組むことが  
できる。  
ウ キャリア教育の視点に立った実践的・体験的な学習を通して、進学・就職の意識を高  
め、目標に向け努力を継続する。  
エ 生徒一人一人が学校農業クラブ活動、部活動、生徒会活動、ボランティア活動  
等に積極的に取り組み、日々挑戦できる魅力ある学校をつくる。
- (4) キーワード  
ア 『なすことによって学ぶ<Learning by Doing>』  
自らの実践や体験することがすべて学びにつながる意識を持つ。  
イ 『生命を育て、食を育む』  
生命を育て、食を育む農業教育は、すべての教育の基本である。  
ウ 『農業とSTEAM教育』  
令和時代の農業教育の「真価」を創造する学びへ転換する。  
エ 『学びの個別最適化』  
一人一人が自分のペースを持ち、主体的に学ぶ機会を創出する。  
(誰一人取り残さない学習機会の創出)  
オ 『保護者と地域は、最高のサポーター』  
生徒・保護者・教師そして地域が一体となって学校の活性化を図る。

3 自己評価総括表				
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策
大項目	小項目			
学校経営	学校生活の充実と魅力発信	生徒の学校生活の充実度を向上と入学を志願する生徒を増やす。	生徒の学校生活の充実度を90%以上（満足度4をより上げる）、前期選抜の倍率を全学科2倍以上、後期選抜の倍率が全学科1.20倍以上を目指す。	授業及び特別活動を充実させ、生徒が主体的に取り組む活躍する場を多く設ける。成功体験から自己肯定感を向上させる。研究指定校や生徒募集を職員総力で取り組み、特色や魅力等の情報発信を積極的に取り組む。
	業務改善	業務内容の精選と見直しを行い、長時間勤務を是正する。	組織全体の情報の共有と連携を重視し建設的な意見から業務内容の改善と内容を具体的に掘り起して実践する。	部会や委員会等の小さな会議を活発化し、職員間のコミュニケーションを図る機会を増やす。良好な関係性が円滑な業務に繋げる。
	働き方改革	全職員の働き方への意識改革と働きやすい職場環境をつくる。	長時間勤務の要因を明らかにし、慢性化している職員の勤務状況を改善し、時間外勤務を前年度比で全職員平均10%削減する。	手立てと目標を明確化し、見通しと進捗状況を確認する。慣例に囚われず効果的かつ効率的に取り組む。衛生委員会より長時間勤務の多い職員への呼び掛けや業務改善委員会から業務改善を促す。
学力向上	新学習指導要領における観点別評価及び学習指導と評価	新学習指導要領における「指導と評価の一体化」の検証と見直し。	「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習内容の充実させるために、新学習指導要領における観点別評価実践と検証をする。	定期考査で、新学習指導要領の評価の観点を明記した問題作成に取り組む。特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について各教科で評価基準を明確にし、生徒と共有する。
キャリア教育(進路指導)	計画的・系統的進路指導	学力の現状分析。3年間を見通した進路指導の実施。	基礎学力の定着。社会状況を理解しながら、進路意識を高める。	模試結果を利用し、学習目標を持たせる。外部イベントや講話等を利用し、社会状況を理解させる。
	キャリア教育の充実	適性を理解し、進路実現に必要な力をつける指導。	自己評価・自己分析を行い、自分の適性を理解する。職業についての知識をつける。	キャリアパスポートで学期の目標・振り返り記録を蓄積し、自己分析・自己評価を行う。外部機関のイベント、教材を利用し、職業の知識を得る。
生徒指導	基本的生活習慣の確立 交通安全の推進	生徒が心身の安定を図ることで、遅刻や欠席なく登校できる。TPOに応じた挨拶や礼儀、整容が身に付いている。	遅刻や欠席数について、生徒の個人内評価の観点を大切にして少しずつ減らす。挨拶や礼儀、整容についての定点調査を実施し、8割以上の生徒がTPOに応じた挨拶や礼儀が身に付き、整容を考えて行動している。	職員は年間をとおして登校指導を実施し、遅刻や欠席する生徒の気持ちに寄り添った丁寧な指導を展開し、生徒たちが安心して登校できるように声掛けを行う。遅刻や欠席のある生徒は、背景にある課題を含め組織的に多方面から支援する。適宜、挨拶や礼儀、整容の指導を実施し、職員と生徒が対話的なコ

				コミュニケーションを図ることにより、生徒が自己のあり方を考える機会をつくる。
		ルールやマナーを守り安全に通学できる。	登下校中の交通事故発生件数を全校生徒数の3%（25件）以内とする。	学期初めに登下校時の交通安全指導を実施する。 登下校時の状況を積極的に確認し、改善の必要があるときは速やかに具体的な指導を実施する。
	生徒会活動の充実	生徒にとって学校行事が充実したものになっている。 各種委員会活動や部活動が活発に活動している。	行事实施後のアンケートにおいて「充実した」と答えた生徒を80%以上とする 各種委員会や部活動等の100%が活動実績を残す。	生徒の声を大切にし、生徒会を中心に魅力ある行事内容の積極的改善を図る。 活動実績のない組織に対して、ボランティアの斡旋や企画への協力依頼をして活性化を図る。
人権教育の推進	人権問題の正しい理解とその合理的判断力の育成	職員研修の充実。  人権LHRの充実。	職員研修を実施し、正しい理解を学び情報を共有する。 年3回の人権LHRを設け、正しい知識や判断力を身につける。	人権をめぐる現状と課題について学ぶ研修を設ける。 各学年の人権LHRのテーマを設け、学期に1回実施する。
	基本的人権尊重の精神と実社会での実践力の育成	人権が尊重される授業実践。  生徒人権委員会の活動を中心とした人権を尊重する環境作り。	職員研修を実施し、実践的指導力を身につける。 生徒人権委員の活動を促進し、人権委員からクラスへ発信できる力を身につける。	授業実践の事例等から指導方法を学ぶ研修を設ける。 学年ごとに委員と職員との懇談会を実施する。 人権委員での研修会を実施する。
いじめの防止等	未然防止への取組強化 早期発見による取組	生徒たちが安心・安全な学校生活を送ることができる。 生徒がいじめられなくてよい、いじめなくてよい環境である。 いじめが発生した場合は、問題の解決が難しくなる前に早期発見できる。	いじめの発生件数を前年度（12件）以下とするが、いじめと疑われる事案が発生した場合は、この目標に囚われず、積極的に認知する。 生徒がいじめを受けた場合、迅速に相談できる体制を構築する。 職員は、いじめを見逃さないよう常に生徒を観察し、未然防止、早期発見、早期対応する。 いじめと疑われる事案が発生した場合、いじめ問題対策委員会を開催し、積極的にいじめを認知する。	担任に対して、HR等を活用し、月に2回以上のいじめ防止に関する啓発を実施するよう依頼する。 生徒の心の安定を図るため、全職員が生徒一人一人を尊重した言動をとる。 いじめに関する職員研修を実施する。 SCや生徒相談員を中心とした校内の相談体制の充実を図る。 心のアンケートやスクールサイン等のいじめを相談できるツールを活用する。 職員は生徒の学校生活を広く観察して積極的に関わることで、いじめの発見につなげる。 いじめが疑われる事案のうち、深刻でないも

				のであっても積極的に認知する。
	発見後の対応	いじめの解決に向けて迅速かつ組織的に対応できる。	いじめ対応マニュアルに沿って対応する。 いじめ問題対策委員会を開催し、発見後の対応を協議する。対応後はマニュアルや委員会での決定事項に沿って適切に行動できたかを検証する。	いじめを発見した場合は、いじめ対応マニュアルに沿って、すぐに状況確認を行い、管理職の指示のもと、関係分掌部と連携して対応する。 状況に応じていじめ問題対策委員会を開催し、対応について協議する。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域と本校との連携強化	具体的方策の実施状況と成果。	大規模災害の発生を想定した避難所・学校運営ができる。	学校運営協議会開催、避難所運営委員会開催、自治会・市・学校との合同防災訓練を実施する。
	生徒の防災意識の高揚	具体的方策の実施状況と成果。	大規模災害の発生を想定して自主的・協働的な行動ができる。	防災教育LHR+避難訓練実施(年3回)、防災意識を高める授業展開、防災便りの発行など啓発活動に取り組む。
特色ある取組	生徒が輝き活躍する教育活動の充実	各学科の専門学習に意欲的に取り組むことができる。	・アグリマイスター顕彰制度等による積極的な評価。 研究指定事業を活かした主体的深い学びつながる授業と適切な指導と評価する。 ・熊本スーパーハイスクール(KHS)構想リーディング型への取組み。	・アグリマイスター顕彰制度を通じて、生徒全員が知識や技術・技能への自信を深める。 事業で生徒が主体的な学習活動の生徒アンケートを分析し、授業改善及び評価の工夫につなげる。 ・各学科におけるプロジェクト学習、課題研究を充実させる。
	農業の魅力発信と地域貢献活動の推進	農業教育を通じた地域貢献活動と学校HP等によるPR活動。	全学科による開放講座の実施及び交流活動 学科の魅力ある学習や取組を積極的に学校HPで発信する。 情報発信力を意識した情報発信。	公開講座等を通して、参加者の方々に熊農の魅力伝える。 HP更新状況を学科主任会で確認し、全学科で魅力発信に取り組むことを常に意識する。 チラシ、学校HPを利用して学校生産品を広く地域に紹介する。

※評価項目の数・内容については、各学校の実態に合わせて自由に設定してください。  
(複数枚になってもかまいませんが、重要度の高いものに絞り、項目を整理して記入してください。)